

研究主題 **論理的思考力を育む文学教材の学習指導**
—— 学力と感性を育む授業を目指して ——

要約：本研究の目的は、現在の文学教材の授業が内包する課題を解決し、今日求められる国語の力を育成するための文学教材の授業(小学校)の在り方について考察し、学力と感性をともに育む文学教材の授業実践を実現することである。方策の1つとして、文学を論理的に読むことに着目し、試行実践を試みた。

キーワード：文学教材，論理的思考力，想像力，感性，学習用語，活用，系統性，伝え合う力
学習意欲，小学校国語

I 問題提起

第1章では、現在求められる国語の力とは何か、そして現在の文学教材の授業が内包する課題とは何かを問題提起として設定した。

学習指導要領とPISA調査の分析をもとに以下7項目を「現在求められる国語の力」として設定した。

- ①実生活で生きてはたらき、各教科・他単元で活用できる国語の力
 - ②論理的に思考し表現する力
 - ③互いの立場や考えを尊重して伝え合う力
 - ④言語文化に触れてはぐくまれる感性や情緒
 - ⑤基礎基本的な知識技能
 - ⑥物語の基本構造やレトリック等の作者の技法と主題の関係を読み取りそれを評価する「熟考・評価」の読解力
 - ⑦物語の主題を読み取る力と作品を批評する力
- 次に、授業づくりの課題、PISA調査と全国学力・学習状況調査からみる読解力と学習意欲の課題、子どもたちが抱える想像力や人間関係の課題をもとに、次の5つを「現在の文学教材の授業が内包する課題」として挙げた。
- ①学びの積み上げがされにくく、活用の意識がも

ちにくい

- ②論理的思考力がつきにくい
- ③想像力と伝え合う力の不足
- ④文学を楽しむ感性や情緒の不足
- ⑤国語への学習意欲の低下

求められる力と課題は、①と①、②と②、③と③、④と④、⑤と①、⑥と①②、⑦と①②と関連づけられ、課題⑤は全ての求められる力と関連している。

次に、「求められる国語の力を育成するために、今、なぜ文学なのか」を考察して主題設定の理由を明らかにした。

なぜ文学教材の授業は学びの実感と活用の意識が薄く、意欲が向上しにくいのかを考えた時、本来は論理的に思考しなければ読むことができない文学教材をイメージと感覚だけで読むことに偏ってしまっていること、本来、豊かな感性を育むために最も適している文学教材の授業で、想像力と思考力の低下から感動を味わうことができる子が少なくなっていることが挙げられる。

考察の結果、次の主題設定の理由が挙げられた。
○文学は論理的思考力を育成するのに適している。故に、論理的に文学を読む授業を実践すれ

ば論理的思考力が育成されるとともに、文学を味わうことにもつながる。そのことにより、国語への意欲の低下や学びの実感の薄さも改善されるから。

- 文学の豊かな表現を学ぶことで豊かな言語感覚や感性、想像力を育むことができ、今後の読書生活の充実や、人生を豊かに生きることにつながるから。
- 今日的課題である、「論理的思考力の向上」と「豊かな感性」の育成につながるから。

II 先行研究

第2章では、目指す授業の方策を示唆する2つの先行研究を挙げ、考察した。

1つ目の先行研究は、鶴田清司氏の『文学教材で何を教えるか』である。分析の結果、以下のように考察した。

言語技術的な内容を教えることに着目して実践を行うことが大切である。ただし、それに偏り過ぎないように留意し「作品を楽しむためのツールとしての言語技術」であることを念頭に置く必要がある。言語技術的な内容、作品を深く読み取ること、人間教育的な要素をバランスよく取り入れた実践を系統性に留意しながら行う必要がある。

2つ目の試行実践は、橋本武氏の『<銀の匙>の国語授業』である。分析の結果、以下のように考察した。

教えるのではなく考えさせる。興味や意欲を大切に追及させる意識をもって実践を行うのが望ましい。文学教材において基本事項は教えるものではなく、それを学ぶことが目的でもない。子どもたち自身が意欲をもって追究する中で見つけるものである、作品を豊かに味わうためのものである。それが子どもたちの「人生の糧」、実生活に生きてはたらく力となる。

III 研究仮説

第3章では、研究仮説として、文学教材の授業が内包する課題を解決し、現在求められる国語の

力を育成するためにはどのような実践を行えばよいかを考察し、実践に必要な要件を示した。

考察の結果、文学を味わい感性を育むことを基礎条件に、文学を論理的に読む授業を伝え合い重視で学びの積み上げを意識しながら実践すると、本稿で挙げた文学教材の授業の課題を改善することにつながり、求められる国語の力を向上させることに寄与することができるのではないかと考えた。それをもとに「課題を解決し、求められる国語の力を育成するための要件」を次のように設定した。

- ①論理的に主題を読み取る力を育成する手立てが必要である。
- ②主題や表現などを批評する力を育成する手立てが必要である。
- ③何を学んだかをはっきりさせ、系統的に学びを積み上げ、活用する力を育成する手立てが必要である。
- ④児童全員が参加し、関わり合い伝え合う力を育成する手立てが必要である。
- ⑤学びの必要感をもって文学を味わい楽しむための手立てが必要である、
- ⑥文学を楽しむための感性や言語感覚、想像力を育てる手立てが必要である。

これらの要件は、先に挙げた求められる国語の力と次のように関連している。要件①と力②、要件②と力⑥⑦、要件③と力①⑤、要件④と力③①、要件⑤と力④、要件⑥と力④

要件を満たすための実践の留意点は次の通りである。

- 学びの見通しをもちふりかえりをしっかり行うことで、既習を生かし学びを積み上げ活用する意識をもたせる。
- 作品を味わうために論理的に主題にせまる活動を工夫し、その過程で基礎基本を積み上げて活用できるようにする。
- 毎時間話し合いの時間を設けて伝え合う力を高め、学びを深める。
- 児童が必要感を持ち、積み上げてきた学びを活用して、学びの楽しさを感じられるような言語

活動を設定する。

○児童の感動を大切に、自分の経験と重ね合わせながら作品を味わう。

以上5点に留意して、要件を満たすための試行実践を行った。

IV 試行実践1

第4章では、要件を満たし、学力と感性をともに育むための、1つ目の試行実践についてその指導の実際と分析を示す。

試行実践1は金沢市立大野町小学校6年1組で「やまなし」の単元で行った。

要件を満たすための工夫を次に挙げる。

○物語の説明書を書く言語活動(要件①②③⑤⑥)

説明書は①設定、②クライマックス、③あらすじ、④すてき表現、⑤主題、⑥作品に対する自分の考え、この6項目で構成し、これは物語を読むスキル「読解6か条」として活用してきたものである。導入で「説明書を書くには、何が必要でしょう?」と問いかけ、既習をヒントに子どもたち自身で方法を考え、見通しをもつことができるようにした。

○学びの積み上げと活用(要件③⑤)

単元を通じて学びの積み上げと活用を意識する。課題を解き明かすために常に既習をヒントにして考え、週末のふりかえりで今日何を学んだのかをはっきりさせる。学習用語を中心に、「重要ワード箱(重箱)」に記録させ、活用できるようにした。

○ふりかえりの充実(要件③⑤)

1時間の授業や単元の終わりに、相互評価、自己評価によるふりかえりを取り入れ、子どもたち自身が学びをメタ認知することができるようにする。

○話し合い活動の充実(要件④⑤)

毎時間子ども同士の交流を取り入れることで、伝え合う力を育てながら学びを深め合うことができるようにする。

○ビブリオバトル(要件⑤)

児童が学びの必要感をもち、興味関心意欲を高

めて、楽しく学ぶための言語活動である。児童にお手本のビブリオバトルの映像を見せ、「物語を楽しみ、その良さを伝えるためにはビブリオバトルで何を言えばいいのか」を考えさせた。子どもたちは活動に興味を示し「ビブリオバトルで言っていること」と既習の「読解6か条」の項目がほぼ一致していること、チャンプになるには作品に対する自分の考えを自分の考えをしっかりと述べるのが大切であることに気付くことができた。

試行実践の他、児童対象のアンケート調査、他校6年生との比較実践等を行い、分析した。

結果、全ての要件において一定の成果を得ることができた。特に、要件③学びの積み上げと活用、要件④伝え合う力、この2点において大きな成果が見られた。課題として、次の2つが挙げられる。▲要件①②において論理的に主題を読み取る力、批評する力、表現の魅力を分析する力が不十分。そのため、スキルや学習用語など基本の習得に精いっぱいになってしまい、要件⑤作品を味わい楽しむこと、要件⑥感性や言語感覚、想像力を育てることがまだ十分ではない。

▲書く力と話す力が不十分。そのため、要件⑤を満たし、文学を楽しむための活動であるビブリオバトルを十分に楽しむことができなかった。

V 試行実践2

第5章では、試行実践1で課題として残った要件を満たすことを目指して試行実践2を「海の命」の単元で行った。試行実践1と2の間に「平和について考える」の単元でスピーチを、「『鳥獣戯画』を読む」の単元で絵の評論文の書き方を学んだ。読むスキルや重要ワード等の一人読みの基本についても、「カレーライス」「やまなし」の2単元の学びの積み上げで、慣れてきたようである。

要件を満たすための工夫に加えて試行実践1で残った課題を解決することを念頭に置いて指導を工夫した。

○論理的に主題を読み取る力の育成のための工夫

変容の因果関係をしっかりと押さえることが

できるよう、主題につながるポイントとなる叙述を読み解くための問いを提示して一問一答で考えさせることで、主人公の変容の因果関係を押さえることができるようにした。(なぜなぜ読み)

○評価する力、表現を分析する力を育成するための工夫

「わけは〇〇だからです」とどまらず、「〇〇のわけは△△だからです」「△△のわけは□□だからです」というように掘り下げていく「理由読み」を取り入れることで、根拠をしっかりととらえて作品の魅力を解き明かすことができるようにした。さらに、自分との比較、同一作者の他作品との比較、他作者の作品との比較しながら読むことで、その魅力を明確に捉えるとともに、想像を広げてその表現を味わうことができるようにする(比較読み)。

○作品を楽しむための工夫

他単元での話す力、書く力の積み上げにより、ビブリオバトルを楽しむことができるようにする。これは、今後の読書活動の充実にもつながっていく活動である。

○要件を満たすための指導の工夫

要件①…読解6か条を活用して評論文を書く、なぜなぜ読み

要件②…批評の視点、理由読み、比較読み。

要件③④…「重箱」による学習用語の積み上げ、ワールドカフェ等による話し合いの充実、ふりかえりや相互評価の充実。

要件⑤⑥…ビブリオバトルで物語を楽しむ。

実践の他、アンケートによる意識調査も行った。結果、試行実践2は6つの要件をほぼ満たすことができ、学びの積み上げと活用、児童同士の交流を意識した実践をすることができた。その中で、論理的思考力や読解力などの学力、想像をふくらませて文学を味わい楽しむ感性を育む基盤を作り、学びの実感を得たことで学習意欲が向上するという成果を得ることができた。この成果は、今後の文学教材の学びや他単元、他教科での学び、日常の読書生活の充実につながるものであると言える。

VI 結論

第6章は、本研究の結論を述べる。

本研究で挙げた現在の文学教材の授業が内包する課題を解決し、現在求められる国語の力を育成するために、6つの要件を設定し、試行実践を行った。その結果、要件①～⑥全てを満たすことができた試行実践2において、学力も豊かな心もともに育む基盤となる授業を実践することができた。

○一人読みのための基礎基本(読解スキルや表現技巧など)を習得することが、読む力をつけ、感性豊かに作品を味わうための土台となる。

○物語を、根拠をはっきりさせたり比較したり、因果関係を考えたりしながら論理的に読むことで論理的思考力や熟考評価の読解力を鍛えることができ、物語を分析する過程で想像をふくらませたりその良さを味わったりすることにもつながる。

○基礎基本を習得したり論理的に読んだりする際には、それを「教える」のではなく「考え・気付かせる・発見させる」ことに留意する。スキル等の習得に比重を置き過ぎると、豊かに作品を味わうことがおろそかになってしまう。

○作品から受けた感動や、学びの積み重ねと活用によって得られる学びの実感は、児童の学習意欲を向上させる。

以上、本研究を通して以下のような結論に至った。

文学を味わい、豊かな感性を育てることを念頭に置いて、文学を論理的に読む授業を、伝え合いと学びの積み上げを重視して実践すると、本稿で挙げた文学授業の課題を改善することにつながり、求められる国語の力の育成に寄与することができる。

